

満開の桜を楽しむ新竹の人々

## 花蓮に植えられた河津桜

本誌編集部



美侖大飯店の河津桜

### ◆三月下旬に五百本を寄贈

昨年十一月から「桜募金」を開始しましたところ、お陰様で六十八名の方から七十六万六千円をご協賛いただきました。このご協賛をもって、本会の台湾側カウンターパートである李登輝民主協会（蔡焜燦理事長）へ三月下旬に河津桜の苗木五百本を寄贈いたします。ご協賛いただいた皆様にご場を借りて深く御礼申し上げます。

ところで、二月十六日から十九日にかけて「二〇二二台湾・お花見ツアー」を実施し、台湾の人々とお花見をしてまいりました。

台湾に到着した二月十六日は、彰化県の鹿港で開かれていた「台湾ランタ

ンフエステイバル」を見学、翌十七日に電車で花蓮に向かいました。

### ◆国立東華大学の河津桜

花蓮市内のホテルに旅装を解き、昼食後に国立東華大学を訪問しますと、同大学原住民族学院の吳天泰院長に迎えられていただきました。相前後して李登輝民主協会の蔡理理事長、理事の李雪峰さん（台湾高座会理事長）や張榮濛さん（元台南市長）たちも到着。

まだ胸の高さくらいの河津桜でしたが、原住民族学院の校舎近くに百本ほど植えられていました。風に倒されないよう木組みの支柱に護られ、すでに花を咲かせているものもあり、濃い目の桜色が鮮やかでした。



国立東華大学構内に建立された記念碑前で握手する蔡焜燦理事長（右）と吳天泰院長（2月17日）

蔡理理事長に記念碑に刻まれた和歌のご説明いただきましたが、これは一昨年詠まれた和歌だそうです。

蓬萊の地に根を張りし大和櫻台日友  
好絆はかた志

### ◆美侖大飯店の自慢の庭の河津桜

続いて、蔡理理事長たちと庭園が売りたいという美侖大飯店に向かいました。確かに高級感たっぷりのホテルで、ホテル玄関前にある庭から河津桜の苗木が植えられていました。花をつけてい



新竹市内の公園で満開に咲いた河津桜を楽しむ人々（2月19日）

る木が何本も見えます。

プールや人工の滝もある広大な庭園を囲むように、三百本の苗木が植えられています。よくよく見ると玄関を入る手前にも植えられていて、ホテルの方がいささか自慢気に説明するのも分かるような気がします。また、どの部屋からも庭が見下ろせるそうで、ホテル側としてはこの河津桜を名物にしたい意向だそうです。

この夜は、美侖大飯店で李登輝民主協会主催による夕食会が開かれ、東華

大学の呉天泰院長なども出席、桜を通して親睦を深めました。

### ◆満開だった新竹の河津桜

花蓮に宿泊した一行は十八日、せっかく東側まで足を伸ばしたので、日本から移民した豊田村（現・壽豊村）や日本時代に森林鉄道が通っていて、映画「トロッコ」の撮影が行われた林田山林場なども訪れました。

翌十九日は帰国の日。搭乗便は夕方発です。それまでの間、最初に河津桜が贈られた新竹市を訪問。

台湾に河津桜の苗木を最初に贈ったのは育桜会（園田天光会長）です。で、平成十五年のことでした。二百本のうちの百四十本が新竹市に贈られ、それが大きく育っています。

日本から贈ったものや新竹側が接木で増やした約七百本の河津桜が新竹市動物公園の園内やそのまわりの運動場などに植えられています。それらが満開に咲き誇っていました。それを多くの

人々が観に来て楽しんでいたことに驚かされました。台湾原種の寒緋桜も満開で、日本の桜と台湾の桜が一緒に咲く光景は見事なものでした。

新竹市李登輝之友会の張震天会長が昼食会を主催され、新竹の「桜守」とも言うべき洪日盛さんや楊根棟さんなども同席、本当に楽しいひと時を過ごしました。

来年は河津桜を贈ってから十年の節目の年。張会長から「日本式の花見」をしようと提案されています。

実は新竹市は岡山市と友好交流都市として姉妹提携しています。提携を進めたのは市長だった萩原誠司はぎわらまこと氏で、萩原氏は現在、法政大学教授をつとめる傍ら本会理事もつとめています。来年は萩原理事をお誘いして桜ツアーを組みたいと考えています。

そんな夢もふくらむ今回の「台湾・お花見ツアー」でした。こじんまりしていましたが充実した内容で、台湾の春をたっぷり満喫してまいりました。